



よね

はら

しげる

米原 蕃

自由民主党
富山県議会議員

県政への思い

思えば昭和62年に初当選の榮に浴し、9期36年の長きにわたって議員生活を続けてまいりました。偏に皆様の温かいご理解ご支援の賜物と改めて深く感謝を申し上げる次第です。

ひと言で36年と申しますが、この間、富山県政における出来事は汲めども尽きぬほどで、私もいろいろな事案に関わりました。無念で唇を噛んだこともありましたが、成果をあげたことも数多く思い出されます。

近年の世界情勢は、3年前から始まったコロナウィルス感染症の拡大、昨年2月に始まったロシアによるウクライナへの侵略など、世界全体を揺るがす出来事が続いております。

コロナ、ウクライナのことで不況、恐慌や政治の非常事態が懸念されました。このような状況下、令和4年度の国内経済に緩やかな回復傾向が見られたことは不幸中の幸いではありますが、まだまだ予測を超えた出来事、変化があると心得ておく時代になっていると感じます。

今、この瞬間^{とき}を大切に
政府は、「これからの日本は、今までになかったような大きな流れに直面する」としています。

大きな要素は、「人口減少と高齢化」そして「インターネットなどの情報化の進化による人の暮らしや社会の変化、多様化」です。

それが将来、具体的にどのような影響を社会に及ぼすのか。今は、ちょうど目に見えて大きな変化を感じる分岐点に差し掛かったところと思われます。今が、大切です、しっかりと変化を見すえて、方向を間違えないようにしなければと感じております。

それでは新しい社会の中にあって、私たちに何が必要なのでしょう？ 明るい富山県、住みよい富山県の未来を実現するためには、**目指すべき将来像を明らかにしなければなりません。**

富山県議会議員

米原 蕃

「人が輝く 元気とやま」を皆で創りましょう。



米原 蕃後援会会長
大島 肇一



砺波市長
夏野 修



富山県知事
新田 八朗

米原 蕃(よねはらしげる) 略歴

[現在]

- 平成21年 3月 特定非営利活動法人 富山県就労支援事業者機構 会長
- 平成21年 5月 自由民主党砺波市連合支部 支部長
- 平成29年 5月 自由民主党富山県支部連合会 常任顧問
- 平成30年 4月 富山経済同友会 特別顧問
- 平成31年 4月 富山県議会議員当選(9期目)
- 令和4年 6月 米原商事株式会社 特別顧問

[これまで]

- 昭和54年 1月 (社)富山青年会議所 理事長(昭和54年12月まで)
- 昭和58年 1月 (社)日本青年会議所富山ブロック協議会 第13代会長(昭和58年12月まで)
- 昭和60年10月 米原商事株式会社 代表取締役社長(平成24年6月まで)
- 昭和62年 4月 富山県議会議員 初当選
- 平成17年 7月 ライオンズクラブ国際協会 334-D地区2リジョンチェアパーソン
- 平成18年 3月 富山県議会 議長(平成19年3月まで)
- 平成21年 3月 自由民主党富山県議会議員会 会長(平成23年3月まで)
- 平成23年 5月 自由民主党富山県支部連合会 会長代行(平成29年5月まで)
- 平成24年 6月 米原商事株式会社 会長(令和4年6月まで)
- 平成26年 4月 富山経済同友会 代表幹事(平成30年4月まで)

富山の見方が変われば、
もっと富山が好きになる。



※この地図は富山県が作成した地図(の一部)を転載したものである。(平24情使 第238号)

自由民主党富山県議会議員
米原 蕃 後援会事務所

砺波市栄町6番27号 TEL(0763)33-4511 FAX(0763)33-2321
e-mail yonehara@po.hitwave.or.jp
ホームページ
アドレス www.tonamino.com

北陸新幹線は
「東京と北陸を結ぶ
大動脈である」
だけではない。

今、北陸新幹線は金沢から先に向けて整備が進められていますが、さらに大阪までの延伸に向けて北陸地方をあげて取り組んでいます。この開通によってはじめて東海道新幹線の代替補完機能を有することになります。



総力を上げて地域経済の活性化をはかる。

①DX(デジタル技術による変革)やベンチャー企業の育成などによって社会の変化に対応できる仕組みづくりにチャレンジする。

②観光地としての「とやま」をさらに磨

き、PRしていく。
③農林水産業の経営基盤強化によって競争力を高め、富山県産品の供給安定化をはかる。

④私たちにとって恒久的に必要なエネルギー供給を「省エネルギー」「再生可能エネルギーの導入」「新エネルギーの開発」など今日的なテーマを踏まえて取り組み、エネルギー先端県を目指す。

「全ての世代が、いきいきと暮らせる社会」を目指す。



少子化問題は、地方の問題。

「少子化」は、1992年に出された国民生活白書「少子社会の到来、その影響と対応」で初めて使用されたと言われています。一方、かつては「人口増加に食料生産が追いつかない」と人口増に警鐘を鳴らした時代もありました。半世紀ほどの間に人口問題は、「多子化問題」から「少子化問題」へと変貌したのです。

どこに少子化問題があるのでしょうか? 「若い人が減ると労働力が失われ、経済規模が縮小するので少子化は困る」と言った議論があります。一方で、「世界中で人口が減少している国は30ヶ国程度(主に先進国)あるが、一人あたりのGDPが成長している国は少なくないので少子化イコール生産性の減少とまでは言えない。将来も電子化やロボット化でかなりの程度補える」とする研究もあります。

元気な人の高齢化は、豊かさのバロメーター。

よく「高齢化が進むと経済成長や社会保障制度に大きな問題が発生する」と言われます。全く違う議論とは申しませんが、あたかも高齢者にクレームをつけるような議論と受け止められ、本質的な出発点を間違えていると思えます。

そもそも、人が高齢になれるということは、経済や社会福祉が正しく機能している証拠であり、個人にとっては幸せなことのはずなのです。

私自身、昭和18年の生まれですが、おかげさまで現在も健康に過ごすごうできています。健康な老人が増えるこ

東京に、そして大都市への人口集中が加速化しています。この偏りが、多くの人々から将来への意欲や成長する楽しみを奪っています。
国のカタチが歪なものにならないように、人々の暮らしが豊かになるために「地方の重要性」を訴えて参りたいと思います。

新田知事は、1月25日の定例会見で「女性が男性の4倍流出している。大変な男女のアンバランスが起きている」と述べ、新年度予算に対策費を計上する考えを示しました。県のまとめでは、去年9月までの1年間に県内から転出した女性は、県内への転入を78人上回り、うち20代が9割近くを占めるそうです。これでは、「少子化にもっと拍車がかかる」と思っても致し方ありません。

一年に鳥取県ほどの人口(55万人あまり)が日本(主に地方)から消えていく今日、国はもろんですが、地方自ら地方が少子化する原因を十分究明していないのではないかと。そして異次元の少子化対策に取り組まねばならないことに気づいていないのではないかと。そこに「危機感」を覚えています。

とは、若者にとってもそれほど悪いことではないと思います。
すべての世代の人が、「いきいきと生きられる社会」を目標にすることから出発したい。特に地方は、その意識を強く持たないと「人口減少」に歯止めがかからなくなります。

老若男女、世代の違いなどは、先進国のありようをよく学んで、吸収できるところは吸収していくことが、新しい「標準」を定めていく近道だと思えます。

私たち富山県民は、「生活の品質」をどこに求めるのか。そうした社会が、もう始まっていると思います。